

防災行動学分野

諸先輩ならびにご関係の皆様へ

防災行動を選択し、実際の行動に至るためのリスク情報の研究開発を行っている土木工学部門「防災行動学分野」です。どうぞよろしくお願いいたします。

本研究室は令和5年12月に設置され、石塚宗司特任教授、星野剛客員准教授、清水啓太特任助教、岩崎由加子学術研究員の4名体制で運営しており、昨年度末2名の学部生が卒業し、新年度新たに2名の学部生を迎えました。

研究室では、内閣府戦略的イノベーション創造プログラム（SIP）第3期（令和5年度～令和9年度）課題「スマート防災ネットワークの構築」のサブ課題「リスク情報による防災行動の促進」における研究開発を支援しています。Society5.0における将来像を見据え、気候変動の影響により激甚化・頻発化する水災害を踏まえ、リスク情報により防災行動の変容・促進するための研究開発に取り組んでいます。

具体的には、関係研究機関と協働し、将来発生し得る水災害を我が身に迫るリスク情報として認知していただけるよう、将来気象や氾濫の広がりをも3D模型に投影するプロジェクションマッピング装置を活用し、地域の自治体、住民、学校、企業等とリスクコミュニケーションを進めています。これら水災害リスクを「ジブンゴト」として捉え行動を促すための実践的研究を推進し、実社会への実装、貢献を目指して研究開発、人材育成を進めています。

諸先輩方におかれましては、本研究開発へのご支援とご協力を賜りますようお願い申し上げます。札幌にお越しの際はぜひお立ち寄りください。

（写真は、令和7年日本自然災害学会オープンフォーラム（9月20日）における、札幌市街地の浸水シミュレーションを用いた水害リスクコミュニケーションの様子です。）

